莎草研究 No. 20: 29−33 (2018).
J. Jpn. Cyperol. (20): 29−33 (2018).

【新産地報告】

香川県と京都府でハクサンスゲが生育

織田二郎[1]・久米 修[2]
([1]〒[redacted] 奈良県香芝市[redacted], [2]〒[redacted] 香川県高松市[redacted])

Jiro ODA[1] and Osamu KUME[2]: *Carex canescens* newly found in Kagawa and Kyoto Prefectures, southwestern Japan
([1][redacted], Kashiba-shi, Nara [redacted], JAPAN; [2][redacted], Takamatsu-shi, Kagawa [redacted], JAPAN)

ハクサンスゲ *Carex canescens* L.は花穂 spike が無柄のグループ（Vignea 亜属 [Kükenthal 1909]）の中で果胞の縁が翼状に広がらないグループ（ハクサンスゲ節）の１種で、北半球の寒帯に広域分布するスゲ属植物である（勝山 2005）。このような分布をする植物は周北極要素植物と呼ばれ（岩槻・加藤 2000）、ヒメカワズスゲ *C. brunnescens* (Pers.) Poir. やタカネヤガミスゲ *C. lachenalii* Schkuhr など、日本では本州中部以北に限って現れるのが普通である。ハクサンスゲも同様であり、北海道や本州中部以北の高山域でのみ見られ（星野・正木 2011）、西日本に居住する著者らにとってはあまり馴染みがない。このたび、花序、花穂、鱗片、および果胞の形態からハクサンスゲと同定しうる個体を、香川県および京都府で確認したので報告する。

香川県仲多度郡まんのう町の「国営讃岐まんのう公園」内の法面緑化地で公園の管理車道として作設された切取法面と盛土法面箇所で、法面保護工として厚層基材吹付緑化が施工された場所がある（図 1A）。2014 年 5 月 8 日に、その法面において、地下部が厚層基材の腐植土に埋もれるように生える見慣れぬスゲ属植物が点々と生育しているのに出会った（図 1B, 1B'）。そのスゲ属植物は、匍匐枝はないがやや下降する根茎を伴い（図 2A 矢印）、花序の長さは 2−5 cm、花穂の数は 2−6、葉の幅が 3−4 mm（図 2A）、花穂は雌雄性で（図 2B 矢印は雄花の花糸）、鱗片は白緑色で鋭頭、長さは 1.5 mm（図 2C 左）、果胞は長さ 2 mm で嘴が短く縁は嘴部付近でざらつき（図 2C 矢印 a）、赤みのある脈が背部で 5−7 本観察された（図 2C 矢印 b）。

図 1. 香川県仲多度郡まんのう町 '国営讃岐まんのう公園' 内法面緑化地とハクサンスゲ.
A: 生育環境．厚層基材吹付緑化法面. B: 生育の様子．他の低地性の草に交じって生育する．
B': 花序の拡大.

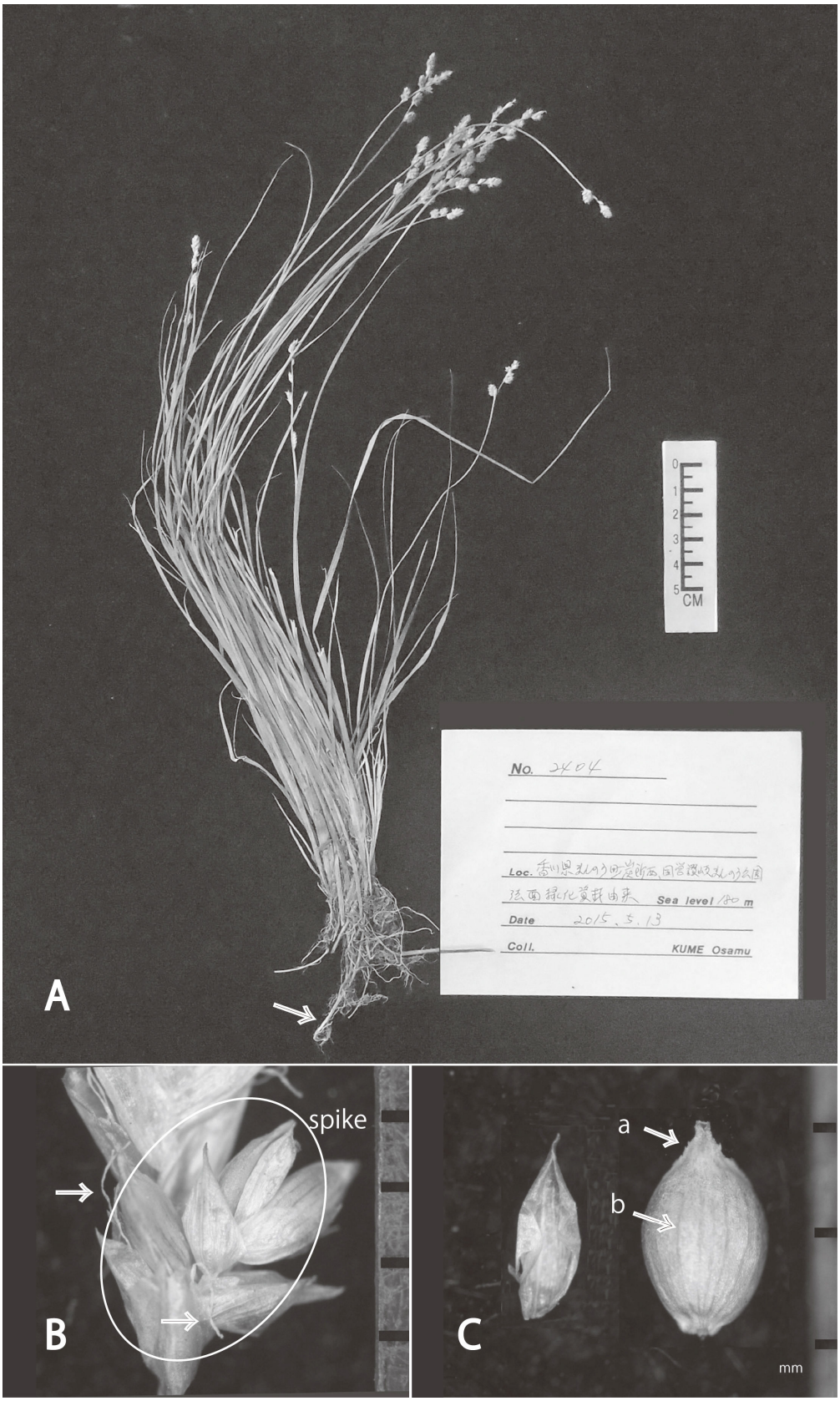

図 2. ハクサンスゲ. 香川県仲多度郡まんのう町国営讃岐まんのう公園産 (*O. Kume* 2404, 13 May 2015, KYO). A: 全形. 矢印は下に伸び出した根茎. B: 花穂 spike. 矢印は雄花の花糸. C: 雌花鱗片と果胞. 矢印 a は嘴部縁のざらつき，矢印 b は赤みのある脈を示す.

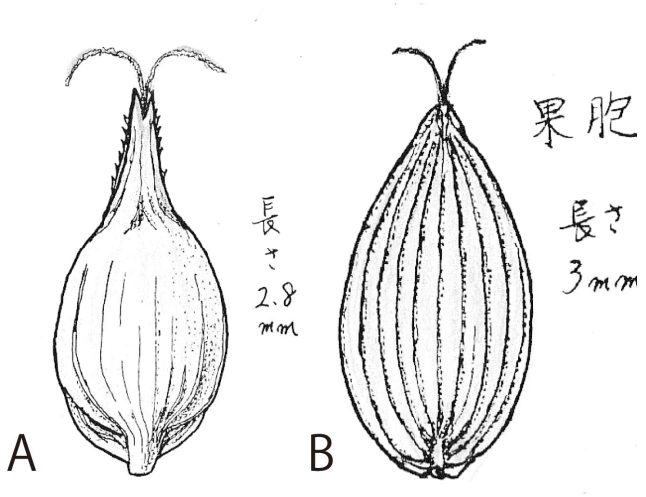

図 3. ヒメカワズスゲとアカンスゲの果胞. A: ヒメカワズスゲ（北海道上川郡銀泉台産, *J. Oda 384*, KYO）. B: アカンスゲ（北海道足寄郡オンネトー産, *J. Oda 364*, KYO）.

このような形態から、ハクサンスゲ節のものであることは明らかであり、ハクサンスゲ節の中では、ハクサンスゲが最も近いと考えられた。ハクサンスゲは、雌雄性の花穂で、鱗片は淡色で先は尖るが禾は出ない。果胞は灰緑色で嘴が短く、その嘴の縁は不規則にざらつくとされ（勝山 2005、星野・正木 2011）、問題のスゲ属植物によく一致していた。しかしながら、西日本の低地にハクサンスゲが自然分布するとは考えられないので、ハクサンスゲに似ているがそれとは異なる帰化種の可能性を考慮し、諸外国の文献を調べてみたが、ハクサンスゲ以外に、該当するものがなかった。

日本においても欧米においても最も形態的に類似しているのはヒメカワズスゲのようで（勝山 2005, Egorova 1999, Mohlenbrock 1999）、ヒメカワズスゲは茎や葉の幅が狭く (1−2 mm)、果胞は淡緑色で、最下の苞に刺状の葉身がある点が異なる（勝山 2005）とされており、まんのう町の問題のスゲは葉の幅の点でも、最下の苞に葉身がない点でもヒメカワズスゲには当たらないと考えられた。また、果胞の嘴部から本体部にかけて裂け目（slit）があるのがヒメカワズスゲ、ないのがハクサンスゲという指摘もある (Kükenthal 1909, Egorova 1999)。確かに問題のスゲには裂け目は見られなかったが、ヒメカワズスゲには裂け目あるいはその痕跡のような縦筋があることを確認した（図 3A）。さらに、Liang (2000) によれば、中国ではハクサンスゲに類似した種はアカンスゲ *C. loliacea* L.とイッポンスゲ *C. tenuiflora* Wahlenb.であるが、両者ともほぼ無嘴の果胞を持つので、今回のものは該当しないことは容易に判断できた（図 3B）。

この調査の過程で、京都府宮津市の標高 400 m の道路わきの斜面で採集され、ヤガミスゲと同定されていた標本を京都大学総合博物館収蔵庫（KYO）で見出した（図 4A）。この標本も、よく見ると最下の苞に葉身はなく（図 4i）、花穂は雌雄性で翼のない短い嘴の果胞を伴っており（図 4s）、ハクサンスゲと同定した。

しかし、京都府を含む近畿地方にハクサンスゲの記録は今までないことから（村田 1994）、香川県よりは冬の積雪の多い京都府北部とはいえ、自生は疑わしい。採集者である宮津市在住の赤松富子氏から、現地の写真を送っていただき（図 4B）、この標本の由来が道路工事と関連がある可能性が理解できた。さらに、村田 (2004) はこの斜面にエゾノキツネアザミが生育していることを赤松氏採集品に基づき報告し、エゾノキツネアザミの一般的な分布域から判断して大陸（中国・朝鮮・シベリアなど）から輸入された吹き付け種子由来

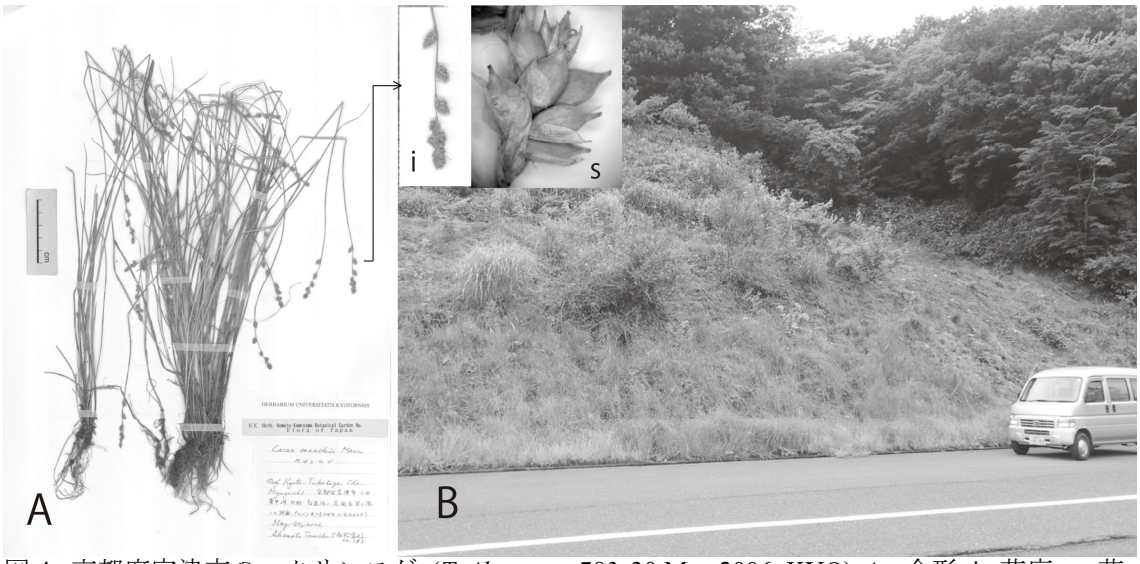

図 4. 京都府宮津市のハクサンスゲ (*T. Akamatsu 783*, 30 May 2006, KYO). A: 全形. i: 花序, s: 花穂. B: 生育場所. 県道沿いの湿った斜面.

であろうと推察していた。

ハクサンスゲは欧米の文献によれば大変多型の種のようで、Kükenthal (1909) は 8 変種を認めている。さらには、この種は容易に雑種を形成することでも知られている (Kükenthal 1909, Egorova 1999, Koopman 2011)。このようにいろいろな面で多様性のある種なので、北半球の寒冷地に広く分布するハクサンスゲのなかには、日本の西日本の低地でも、生育できるような適応力を備えた系統がどこかにあるのではないかと推測する。前述した生育地の状況から、今回香川県と京都府で見出されたハクサンスゲは、日本産のハクサンスゲではなく､外国から持ちこまれたものではないかと考えたほうが良いと思われる。日本産のハクサンスゲとの違いは花部分の検討では見つけることができなかった｡ただし、日本産のハクサンスゲは高層湿原に生育し､基盤が柔らかいので､根茎が緩く､しばしば､縦方向に根茎が伸びている場合が多いが、香川県の場合は少しだけ根茎が下向きに伸びているにしても全体としては大きな株となっている。また、京都府の場合はよく叢生していた。今後、ハクサンスゲについては、自生かどうか判断が難しい事例が生じうると考えられ、注意が必要と思われる。

証拠標本. 香川県：仲多度郡まんのう町 国営まんのう公園 (O. Kume 2404, 13 May 2015, KYO). 京都府：宮津市小田, 400 m alt. 府道法面下の湿潤地（T. Akamatsu 783, 30 May 2006, KYO).

京都府宮津市の赤松富子氏と香川県高松市の佐藤明氏には、現地調査にご協力いただいた。記して感謝申し上げる。

引用文献

Egorova, T. V. 1999. The sedges (*Carex* L.) of Russia and adjacent states. St.-Petersburg State Chemical-Pharmaceutical Academy, St.-Petersburg and Missouri Botanical Garden Press, St.-Louis.

星野卓二・正木智美（著）・西本眞理子（画）2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社, 東京.

岩槻邦男・加藤雅啓 2000. 多様性の植物学 ①植物の世界. 東京大学出版会, 東京.

勝山輝男 2005. 日本のスゲ. 文一総合出版, 東京.

Koopman, J. 2011. *Carex* Europaea. Margraf Publishers GmbH, Weikersheim.

Kükenthal, G. 1909. Cyperaceae-Caricoideae. *In*: Engler, A. (ed.), Das Pflanzenreich IV. 20 (Heft 38): 1−824.

Liang, S.-Y. 2000. *Carex* Sect. *Canescentes*. *In*: Dai, L.-K. and Liang, S.-Y. (eds.), Fl. Reipubl. Popul. Sin. **12**: 516−519. Science Press, Beijing.

Mohlenbrock, R. H. 1999. The Illustrated flora of Illinois, Sedges: *Carex*. Southern Illinois Univ. Press, Carbondale.

村田 源 1994. 近畿地方植物誌 35. 近畿植物同好会会誌 **17**: 21−24.

村田 源 2004. エゾノキツネアザミ丹後の府道法面に大発生. 京都植物 **27**(3): 47.